

みなさんは「知らなければ、よかったのにな。」と思ったことはありませんか。私はあります。例えば、テストが2週間後にせまっていると気が付いた時や、自分の好きな人に他に好きな人がいたと知った時など、「知らなければよかった、気が付かなければよかった。」と思うことが多いと思います。実際私は受験時代、模試の結果が返ってくるたび、「知らなければよかった」と悲嘆に暮れていました。そんなことが続いたため、私は「知らなければ人は幸せに暮らしていけるのではないか」と思うようになり、現実逃避をするようになりました。そうこうしている間に私の成績は下がりましたが、私はそれすらも知らないふりをし、受験生にも関わらず、のんびりとした日々を過ごしていました。そんなある日、私は先生に「人間は知らなければ幸せに生きていける生物だから、別に勉強なんてしなくてもいいと思うんですよねー」と言いました。すると先生は真顔で「本当に知らなければ幸せになれるの？」と私に訪ねました。その言葉はなぜか私の心に響き、私は「知る」ということについて考える機会を持つことができました。

そのとき、まず私は「知る」ことのメリットとデメリットを考えてみることにしました。例えば、模試が返ってきて悪い結果を知ってしまった、この場合のデメリットは「悲しい気持ちになる」「自分に自信をなくす」などだと私は考えました。では逆にメリットはなんでしょう。考えてもメリットは浮かんできませんでした。同時にこう思いました。「模試の悪い結果を知れば、悲しくなるだけではなく、悔しくなる、その悔しさはもしかしたら勉強する活力になるのではないだろうか」と。さらに私は努力して勉強した後を思いうかべてみました。そこには第一志望校に通う私の姿がありました。その時私は幸せだなと心の底から思いました。

私はこれらの経験を思い出して「知る」ということは「未来の幸せを作ること」だと思いました。たしかに、知らなければ傷つくこともないし、悲しむこともありません。ですが、それでは自分自身が成長することも、前に進むこともないのです。逆に知ることができれば、たとえその時がつらくても、努力し、よりよくすることができます。それは未来の自分を幸せにするために必要不可欠なことです。また、受験の時のできごとによって、勉強は知ることにつながっているということに気が付きました。今までの私はなぜ勉強するのかが分からず、ただ機械的に宿題をこなしていただけでした。しかし、私が今勉強しているのは、世界を知り、私が今後どのように社会で生きていくのかを考えるためだと知れば、あれだけ嫌がっていた勉強もありがたく思えるようになりました。

現実を知るということは、たしかに怖いことですが、それを乗り越えない限り、その先に幸せはないと思うのです。私は受験後、また現実から逃げてばかりで知ることをしなかったため、悪い方向へと向かっていく生活に戻っていました。しかし、もうそんなことは終わりにします。きちんと現実を知り受け止め、変えていこうとする勇気を持てるよう努力しようと思います。受験生の時に心を入れ変えて現実を知ったからこそ、今の恵泉生活があるのだということを忘れず、これからも現実を知って、それと向き合ってみようと思います。